



# 第 45 回 愛媛形成外科研修会

## 抄 録 集

日 時 令和 2 年 12 月 12 日 (土) 17 時 00 分～  
場 所 四国がんセンター 本館 3 階 研修室  
愛媛県松山市南梅本町甲 160 番  
TEL : 089-999-1111 (代)

当番世話人

住友別子病院 形成外科 安井 史明

## 第 45 回 愛媛形成外科研修会

### 研修会について

1. 参加受付は、16 時 30 分より会場で行います。
2. 参加費として 2,000 円を受付にて申し受けます。

今回の特別講演は、日本形成外科学会の「領域講習」に認定されております。

「領域講習」として受講される専門医の方は、受講料として 1,000 円を申し受けます。

3. 演者でまだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取りください。
4. 一般演題での発表時間は、一題あたり 5 分と 3 分、質疑応答は 3 分を予定しています。
5. PC は Windows10、PowerPoint2016 を使用しての発表になります。  
(当日は、USB メモリーあるいは PC 本体をお持ちください。)
6. 当日、駐車場ご利用の方は無料ライターを準備しております。  
駐車券を受付までお持ちください。

### COVID-19 対策について

1. 会場入口での検温の実施にご協力ください。
2. 会場内ではマスクを着用してください。
3. 運営スタッフもマスク・手袋を着用させていただきます。
4. 座長席、演台前に消毒液を設置いたしております。  
マイク、マウス、レーザーポインター等ご利用の前後には、手指消毒をしてください。
5. 三密回避のため、会場では十分に間隔をあけておかけください。

## 会 歴

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成 10 年 7 月 4 日	15 名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成 10 年 12 月 5 日	17 名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成 11 年 6 月 19 日	20 名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 11 年 11 月 27 日	19 名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 6 月 24 日	17 名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 12 年 12 月 9 日	20 名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 6 月 23 日	23 名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 13 年 12 月 8 日	23 名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 6 月 8 日	27 名
第 10 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 14 年 12 月 14 日	27 名
第 11 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 6 月 28 日	25 名
第 12 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 15 年 12 月 13 日	25 名
第 13 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 6 月 26 日	26 名
第 14 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 16 年 12 月 4 日	29 名
第 15 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 6 月 18 日	31 名
第 16 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成 17 年 12 月 10 日	35 名
第 17 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 6 月 24 日	31 名
第 18 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 18 年 12 月 9 日	26 名
第 19 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 6 月 16 日	37 名
第 20 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 19 年 12 月 15 日	30 名
第 21 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 6 月 14 日	30 名
第 22 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 20 年 12 月 6 日	30 名
第 23 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 6 月 27 日	32 名

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 24 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 21 年 12 月 12 日	28 名
第 25 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 6 月 19 日	34 名
第 26 回	田中 伸二 (石川病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 22 年 12 月 11 日	30 名
第 27 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 6 月 18 日	31 名
第 28 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成 23 年 11 月 26 日	25 名
第 29 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	えひめ共済会館 4 階 末広	平成 24 年 6 月 23 日	34 名
第 30 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 24 年 12 月 1 日	26 名
第 31 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 25 年 6 月 22 日	36 名
第 32 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	にぎたつ会館 2 階 楓の間	平成 25 年 11 月 30 日	30 名
第 33 回	安井 史明 (住友別子病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 26 年 6 月 21 日	32 名
第 34 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 新館カンファレンス会議室	平成 26 年 11 月 29 日	32 名
第 35 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 27 年 6 月 27 日	36 名
第 36 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 27 年 11 月 21 日	27 名
第 37 回	手塚 敬 (松山市民病院 形成外科)	松山市民病院 2 階多目的ホール	平成 28 年 6 月 11 日	32 名
第 38 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	平成 28 年 12 月 10 日	30 名
第 39 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 3 階中会議室①②	平成 29 年 6 月 24 日	36 名
第 40 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部附属病院 形成外科)	四国がんセンター 本館 3 階研修室	平成 29 年 12 月 9 日	32 名
第 41 回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	松山赤十字病院 4 階多目的ホール	平成 30 年 6 月 9 日	27 名
第 42 回	田中 伸二 (HITO 病院 形成外科)	HITO 病院 3 階 大会議室	平成 30 年 12 月 1 日	28 名
第 43 回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 新棟 3 階研修室	令和元年 6 月 22 日	31 名
第 44 回	中川 浩志 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県立中央病院 管理棟 1 階 講堂	令和元年 12 月 7 日	37 名

四国がんセンターへのアクセス



愛媛県松山市南梅本町甲 160 番      TEL : 089-999-1111 (代)

## プ ロ グ ラ ム

**Section I (17:00~17:40)**

座長：住友別子病院 安井 史明 先生

1. 眼窩底骨折新鮮例での手術法の比較検討 (5分)  
愛媛県立中央病院 形成外科 石野 憲太郎 他
  2. 静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科における歯科支持療法について (5分)  
静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科 古川 康平
  3. 乳輪乳頭再建における 3D メディカルアートメイクの有用性 (5分)  
藤田医科大学 形成外科 大西 智子
  4. 足部に生じた高圧注入損傷の 1 例 (3分)  
住友別子病院 形成外科 長谷川 雄大 他
  5. 当院で経験した外陰部パジェット病の 2 例 (5分)  
四国がんセンター 研修医 宇都宮 果歩 他
- 休憩 (5分)

**Section II (17:45~18:25)**

座長：住友別子病院 阿部 なつみ 先生

6. 左腋窩皮膚原発アポクリン腺癌の 1 例 (5分)  
四国がんセンター 形成外科 中山 盛皓 他
7. VAC 及び VAC ultra の使用で改善しなかった尾骨骨髓炎を伴う仙骨部褥瘡の 1 例 (5分)  
松山赤十字病院 形成外科 阿古目 健志 他
8. 所属リンパ節郭清と悪性黒色腫皮膚転移例の検討 (5分)  
愛媛大学医学部附属病院 形成外科 檜垣 ひろみ
9. 治療に難渋した下咽頭癌術後の咽頭皮膚瘻 (5分)  
松山市民病院 形成外科 浅野 遥奈 他
10. Anterior cutaneous nerve entrapment syndrome (ACNES) の 1 例 (5分)  
済生会松山病院 形成外科 三宅 啓介

総会 (18:25~18:35)

休憩 (10分)

**特別講演 (18:45~19:45)**

座長：住友別子病院 安井 史明 先生

「リンパ浮腫～早期発見から進行期の治療まで」

講師：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床リンパ学講座 准教授 山田 潔 先生

共催： 松山形成外科医会 愛媛形成外科医会

## Section I (17:00~17:40)

座長：住友別子病院 安井 史明 先生

## 1. 眼窩底骨折新鮮例での手術法の比較検討

愛媛県立中央病院 形成外科

○石野 憲太郎、中川 浩志、徳永 和代、尾崎 絵美、田中 克弥、土居 未歩

(5分)

当科では眼窩底骨折単独新鮮例に対して2014年4月までは直視下での整復術を行っていたが、それ以降は顕微鏡下での整復を第1選択としている。また、直視下・顕微鏡下に関わらず骨折部からの嵌頓組織引き上げが困難な場合は眼窩縁の骨切りを併用し整復することとしている。2014年4月までの1年間と2014年5月以降の1年間で同一執刀者が行った症例について眼窩縁骨切りの有無、手術時間、出血量などを比較したので報告する。

## 2. 静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科における歯科支持療法について

静岡県立静岡がんセンター 歯科口腔外科

○古川 康平

(5分)

静岡県立静岡がんセンター歯科口腔外科では、いわゆる口腔ケア以外にも、がん患者さんに対し、がん専門病院の歯科として様々な治療を提供している。具体的には、顎顔面欠損に対するエピテーゼ治療、口腔がん術後顎欠損に対するインプラント補綴、頭頸部がんCRTや造血幹細胞移植後の晩期口腔有害事象に対するメンテナンスなどを重点的に行なっている。今回、当科での診療内容について報告する。

## 3. 乳輪乳頭再建における 3D メディカルアートメイクの有用性

藤田医科大学 形成外科

○大西 智子

(5 分)

乳癌術後の乳輪乳頭再建方法においては複合組織移植、局所皮弁等の外科的治療での再建が多い。しかし乳癌の治療も含め複数回手術を行い再度手術に向かうことに消極的な場合や皮弁作成にリスクを伴う場合など低侵襲な再建を望まれる方もいる。そのような場合は低侵襲な再建方法として 3D メディカルアートメイクの適応と考えている。質の高い乳輪乳頭再建を行うにあたり今回症例を供覧し本再建方法の有用性について報告する。

## 4. 足部に生じた高圧注入損傷の 1 例

住友別子病院 形成外科

○長谷川 雄大、安井 史明、阿部 なつみ

(3 分)

症例は 46 歳男性。勤務中に使用していた高圧洗浄水が左足背に注入され受傷。左母趾足背に 1cm 程度の挫創を認め、膝下まで広範囲で握雪感があり、CT でも大腿までの皮下気腫を認めた。同日創部の小切開と異物除去を行い、その後は抗生剤投与および洗浄で感染の悪化なく経過した。高圧注入損傷は比較的稀な四肢外傷である。その報告のほとんどが手に関するものであり、下肢に関するものは少ない。若干の文献的考察を踏まえて報告する。



5. 当院で経験した外陰部パジェット病の 2 例

四国がんセンター 形成外科

○宇都宮 果歩、河村 進、山下 昌宏、中山 盛皓

(5 分)

外陰部パジェット病は、湿疹として見逃されることが多い。研修中に外陰部パジェット病を 2 例経験した。1 例目は確定診断より 7 年前、2 例目は約 4 年前から皮膚症状を認めていたが、湿疹として経過観察されていた。外陰部の湿疹はパジェット病を考慮する必要がある、経験した症例を若干の文献的考察を加えて報告する。

休 憩 (17:40~17:45)

## Section II (17:45~18:25)

座長：住友別子病院 阿部 なつみ 先生

## 6. 左腋窩皮膚原発アポクリン腺癌の 1 例

四国がんセンター 形成外科

○中山 盛皓、河村 進、山下 昌宏

(5 分)

50 歳男性。3 年前に米粒大の左腋窩皮膚腫瘤を自覚し徐々に増大したため前医を受診した。生検で腺癌と診断され、PET-CT 検査で 3cm 大の左腋窩皮膚腫瘤と左腋窩リンパ節の集積を認めた。手術目的で当科へ紹介となり、腫瘍摘出術と左腋窩リンパ節郭清術を施行した。病理組織検査で左腋窩皮膚原発アポクリン腺癌と診断され、追加で放射線療法を行った。腋窩皮膚原発アポクリン腺癌は比較的まれであり若干の文献的考察を加え報告する。

## 7. VAC 及び VAC ultra の使用で改善しなかった尾骨骨髄炎を伴う仙骨部褥瘡の 1 例

松山赤十字病院 形成外科

○阿古目 健志、庄野 佳孝

(5 分)

56 歳女性。両側の変形性股関節症と高度肥満により寝たきりとなり仙骨部褥瘡をきたし外来で治療を行っていたが尾骨骨髄炎を併発し発熱をきたしたため、入院加療を行った。腐骨除去、デブリードマンを施行した後に VAC 装着、クレンズフォームを用いた VAC ultra での陰圧間欠洗浄療法を行ったが、不良肉芽と浸出液の増加を認めたため報告する。

## 8. 所属リンパ節郭清と悪性黒色腫皮膚転移例の検討

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

○檜垣 ひろみ

(5 分)

2010 年 2 月～2020 年 7 月までの間に当院で悪性黒色腫に対し手術を施行された 91 例のうち、四肢原発で stage I～III の 31 症例について術後の皮膚転移について検討した。皮膚転移は 8 例に認められた。このうち、所属リンパ節郭清部より末梢で多発皮膚転移を認めたものが 6 例であった。これについて若干の考察を追加して報告する。

## 9. 治療に難渋した下咽頭癌術後の咽頭皮膚瘻

松山市民病院 形成外科<sup>1)</sup> 愛媛大学医学部附属病院 形成外科<sup>2)</sup>

○浅野 遥奈<sup>1)</sup>、戸澤 麻美<sup>2)</sup>、川野 貴大<sup>2)</sup>、檜垣 ひろみ<sup>2)</sup>、眞田 紗代子<sup>2)</sup>、松本 麻由<sup>2)</sup>、  
森 秀樹<sup>2)</sup>、中岡 啓喜<sup>2)</sup>

(5 分)

症例は 86 歳男性。喉頭癌に対する放射線治療歴と、頸部血管の高度狭窄あり。下咽頭癌に対し、下咽頭喉頭頸部食道摘出術と両頸部郭清術、大胸筋皮弁による下咽頭～頸部食道の管状再建術を施行した。皮弁・胸部食道吻合部に咽頭皮膚瘻を生じ、咽頭側は管状大胸筋皮弁の再縫合、皮膚側は DP (Deltopectoral) 皮弁を用いて瘻孔閉鎖した。再発のため、追加で 2 度の手術を施行した。治療に難渋したため、報告する。

10. Anterior cutaneous nerve entrapment syndrome (ACNES) の 1 例

済生会松山病院 形成外科

○三宅 啓介

(5 分)

Anterior cutaneous nerve entrapment syndrome (ACNES)は肋間神経が腹直筋を貫く部位で絞扼されることによって腹痛が生じる疾患である。原因不明の腹壁痛の鑑別診断となるが、本邦では広く認知されているとは言い難い。症例は 16 歳女性で、左右腹部の疼痛を主訴に内科を受診した。ACNES を疑われ当科紹介となった。手術により疼痛は改善した。手術は腹直筋皮弁挙上でよく見る術野である。細い神経を扱うことに慣れている形成外科がその利点を生かせると思い、症例報告する。

総 会 (18:25~18:35)

1. 次回研修会の日程

2. その他

休 憩 (18:35~18:45)

特別講演 (18:45~19:45)

座長：住友別子病院 安井 史明 先生

「リンパ浮腫～早期発見から進行期の治療まで」

講師：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
臨床リンパ学講座 准教授 山田 潔 先生

近年ではがんサバイバーの増加に伴い治療後の QOL をいかに保つかが注目されており、リンパ浮腫は積極的介入のターゲットの一つとなっている。

リンパ浮腫の治療としては複合的治療（保存的治療）が第一選択となっているが、当施設においては外科治療も積極的に行っており、現在では病院連携によってこの 2 つの治療をスムーズに繋げることでより効果的で患者満足度の高い治療を目指している。

治療のポイントはできるだけ早期の状態で介入する事であり、このために必須なのは ICG 蛍光リンパ管造影検査（以下 ICG-LG）である。100 体以上のご遺体を用いたリンパ解剖研究と、リンパ浮腫の診断に必要な ICG-LG プロトコル研究により、「標準的 ICG-LG 検査法」を確立し、これによって上肢および下肢全体のリンパの状態が評価できるようになった。この結果に基づいてリンパ浮腫の治療プランを立てている。

治療のコアとなっているのは圧迫療法であるが、ICG-LG の所見によって、どの部位に、どれぐらいの圧をかけるか、を決めている。またリンパドレナージの方向も、各個人で異なる ICG-LG の所見に合わせてドレナージを行った方がより短時間で効果が得られやすいと考えている。

外科治療はリンパ浮腫の重症度に応じてリンパ管静脈吻合術、血管付きリンパ節移植術、脂肪吸引術、余剰組織切除術などを行っているが、これも ICG-LG の所見によって手術方法、手術部位を決めており、複数の術式を組み合わせたハイブリッド治療も実施している。

また当院ではフォローアップが重要と考えている。リンパ浮腫の患者さんは中長期的にさまざまな原因で病状が変動することがあるため、定期的にフォローを行いながら随時必要な介入を行い、治療へのモチベーションと QOL が維持できるよう心がけている。

略 歴

【現職】

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床リンパ学講座 准教授

【職歴】

平成 9 年 4 月	川崎医科大学附属病院 ジュニアレジデント
平成 11 年 4 月	川崎医科大学附属病院 シニアレジデント (形成外科・美容外科)
平成 12 年 4 月	独立行政法人国立病院機構四国がんセンター シニアレジデント (形成外科)
平成 15 年 4 月	岡山大学医学部附属病院医員 (形成外科)
平成 16 年 4 月	川崎医科大学附属病院助手 (形成外科・美容外科)
平成 21 年 4 月	岡山大学病院助教 (形成再建外科)
平成 30 年 4 月	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科准教授 (臨床リンパ学講座)